

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年10月22日発行 No.84

『そこで、イエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が民を支配し、偉い人たちが権力を振るっている。しかし、あなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になりいちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。』

(マルコによる福音書 第10章42~44節)

<更に深い高大連携の実現に向けて…。 附属高校秋の特別礼拝でお話をして来ました!!>

爽やかな秋晴れとなった先週水曜日の17日、私は垂水の学が丘にある附属高校に招かれました。この時期、附属高校では秋の宗教週間として特別礼拝を行っており、その中で奨励を担当してきました!! 夏のオープンキャンパスでも、積極的な姿勢が印象的であった1年生、約280名を前にして話をするのは少し緊張しましたが、高校教師を20年勤める中で起こったエピソードを中心に話をすると、1年生の多くが大きな目をクリクリさせながら話を聞いてくれました。2年前にも同じ礼拝に参加しましたが、やはり男子校と共学とでは(その数が少なくても)ずいぶん雰囲気が違うなあ…と思いました。

思えば、神戸国際大学は今年50周年という記念すべき年を迎えています。附属高校も長年の男子校という殻を破って新しいチャレンジに乗り出しています。急激な少子化を迎えて、特に私学にとって厳しい状況が続いていますが、このような時こそ、高校—大学の連携をしっかりと保ち、互いに切磋琢磨しながら学院を盛り上げていきたいですね!!



当日は心も晴れやかになるお天気



1年生 約280名に一人ひとりの中にある恵みについて話しました



<特殊なカメラで撮影された映像で、チャペルの魅力はどう変わるのか…?>

現在KIUは、新しい広報用映像の撮影を行っています。特殊な機材(ドローンなど)を使って撮影されたその映像では、空間的な広がりや神戸の海と活き活きした学生(留学生も含む)の笑顔と共に魅力的に表現されています。嬉しい事に、このチャペルの持つ荘厳な空気もバッチリ再現されており、試作版とはいえ、そのクオリティの高さに驚かされました!! この映像から一人でも多くの参加者が生まれれば…と願っています!!



趣味からこの道に入ったマツトさん

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

10月15日（月）テーマ：「便利さの裏側にあるもの」 野間 光顕（チャプレン）

先日、コンビニでアルバイトをしている学生のニュースに驚かされた。Aさんがバイト先のコンビニに出勤すると、店長から勤務姿勢を理由に100万円の損害賠償を請求された。司法書士を背後につけて強権的に念書を求める店長に、Aさんは嫌々応じてしまう。他にも、労働時間超過や売れ残り商品の買い取りなど、一種詐欺的とも言える店舗経営が深刻な問題になっている。聖書は偉大なダビデ王であっても、便利さの中であぐらを掻いた時に本当に大切な事を見失う人間の悲しさを今日に伝える。私たちも、果てしなく追い求め続けられる便利さの先に何かあるのかをしっかりと見つめながら生活する事が求められるのではないだろうか？

10月16日（火）テーマ：「生きるということ」 中村 智彦（経済学部）

この度、私は大きな手術を受けた。手術は無事終了したが、入院した病院で様々な裏側を垣間見る事ができた。例えば集中治療室（ICU）。普通、ここに運ばれる人は意識がない重篤な場合が多いらしく、意識があった自分には貴重な経験となった。また、ICUで勤務する看護師の嘆きを耳にした。一般的に看護師は患者の身の周りの対応を行うので、退院時には感謝される事が多い。けれどもICUは患者の意識がないので廊下で会ってもめったに感謝されない。それ聞いて、私たちは普段の生活の中でどれだけ感謝を表しているか…？と考えさせられた。振り返れば自分は多くの人々の働きによって支えられている。感謝を忘れないように生きたい。

10月17日（水）テーマ：「消えていく境界線」 野間 光顕（チャプレン）

10月も中旬を迎え、朝晩の空気の変化や紅葉の美しさを感じながら通勤の電車に乗っているとある広告が目にとまった。10月下旬のハロウィンと12月のクリスマスと一緒に告知するものでお馴染みのハロウィンの帽子を被っている映像に言いようのない虚無感を覚えた。確かに近頃高い経済効果を生み出しているハロウィンから継ぎ目なく年末商戦に繋げたい…そんな経済界の目論見が透けて見えるが、「境界線」や「境目」をどんどん曖昧にしている昨今の風潮を前に、改めて私たちが大切にしてきた季節や時間の節目の文化を想う。この礼拝も日常から離れて心に響く神の声を聴く「時」と「場所」である。数字では表せない世界を感じ取る内面を磨きたい。

10月18日（木）テーマ：「アーメン」 上杉 雅之（リハビリテーション学部）

ミッソリカールであるKIUの中では、よく「アーメン」という言葉を耳にする。これは「まさにその通り」「同意します」という肯定を意味する語だが、一説によると古代のユダヤ教会で行われていた聖書の丸暗記教育を省略する所から生まれたそうだ。一方で、この言葉は人間の持つ「頑なさ」に対する一つの問いかけのようにも感じる。私は（自身を含め）人の抱える「頑なさ」こそが、時にその人を更に生き難くさせているように思う。「アーメン」と唱える時に心に生まれる素直さを覚えながら、この「アーメン」という言葉を常に心に留めながら歩みたい。

10月19日（金）テーマ：「科学技術の進展と人間の幸せ」 山本 克典（副学長）

昨今、科学技術の発展が目覚ましいが、それで本当に人間は幸せになったのだろうか？ 新幹線を使えば3時間弱で東京に行ける。江戸時代は2週間もかかったそうだ。では江戸時代の人は不幸だったのか…？と問われればそうとは言い切れないだろう。恐らく東海道を旅しながら与えられる様々な出会いや発見がその人の人生を豊かにしたはずだ。現在はIT技術が発達して便利にはなっているが、一方でご飯も食べず誰とも話さない深刻なネット依存が問題になっている。科学技術自体そのものは、種の存続のカギを握る重要なファクターだ。月旅行のニュースも聞こえてきている今、この技術を真の幸せの為に生かしたい。 （文責：野間 光顕）